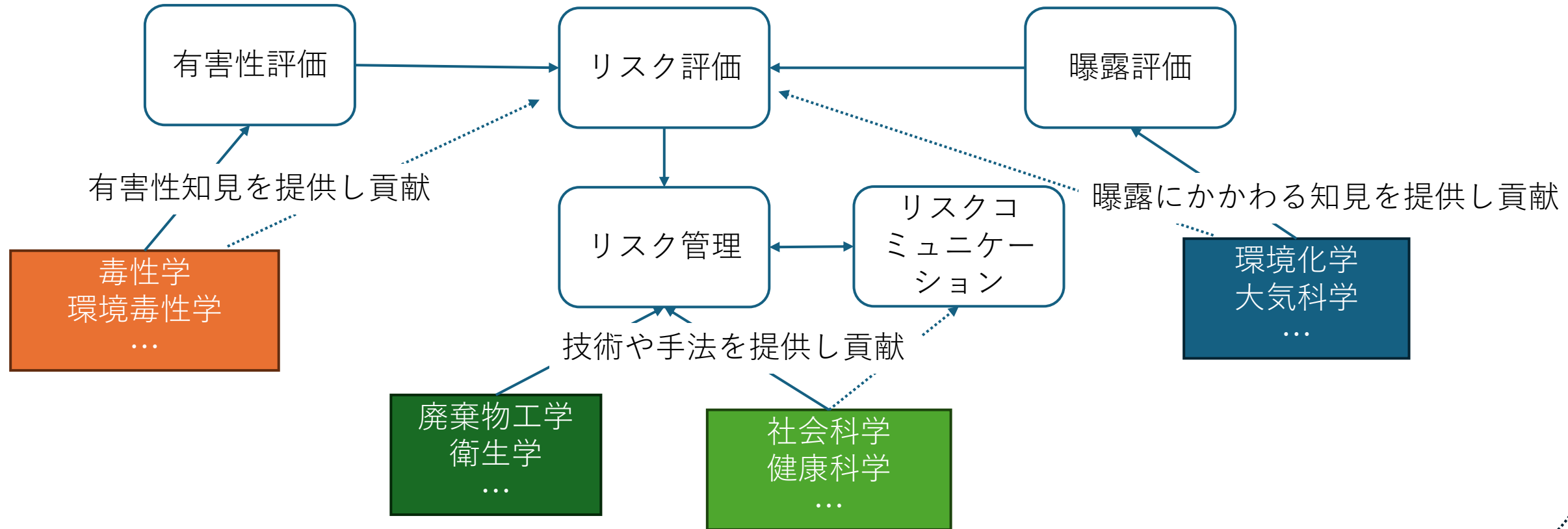


特別企画4：
化学物質、廃棄物及び汚染に関する政府間
科学・政策パネル(ISP-CWP)への我が国
学術界からの提言

一化学物質、廃棄物、汚染の学術分野とし
ての考え方一

国立環境研究所 鈴木規之

化学物質問題と学术界とはこのような関係がよく想定 されると思うが...

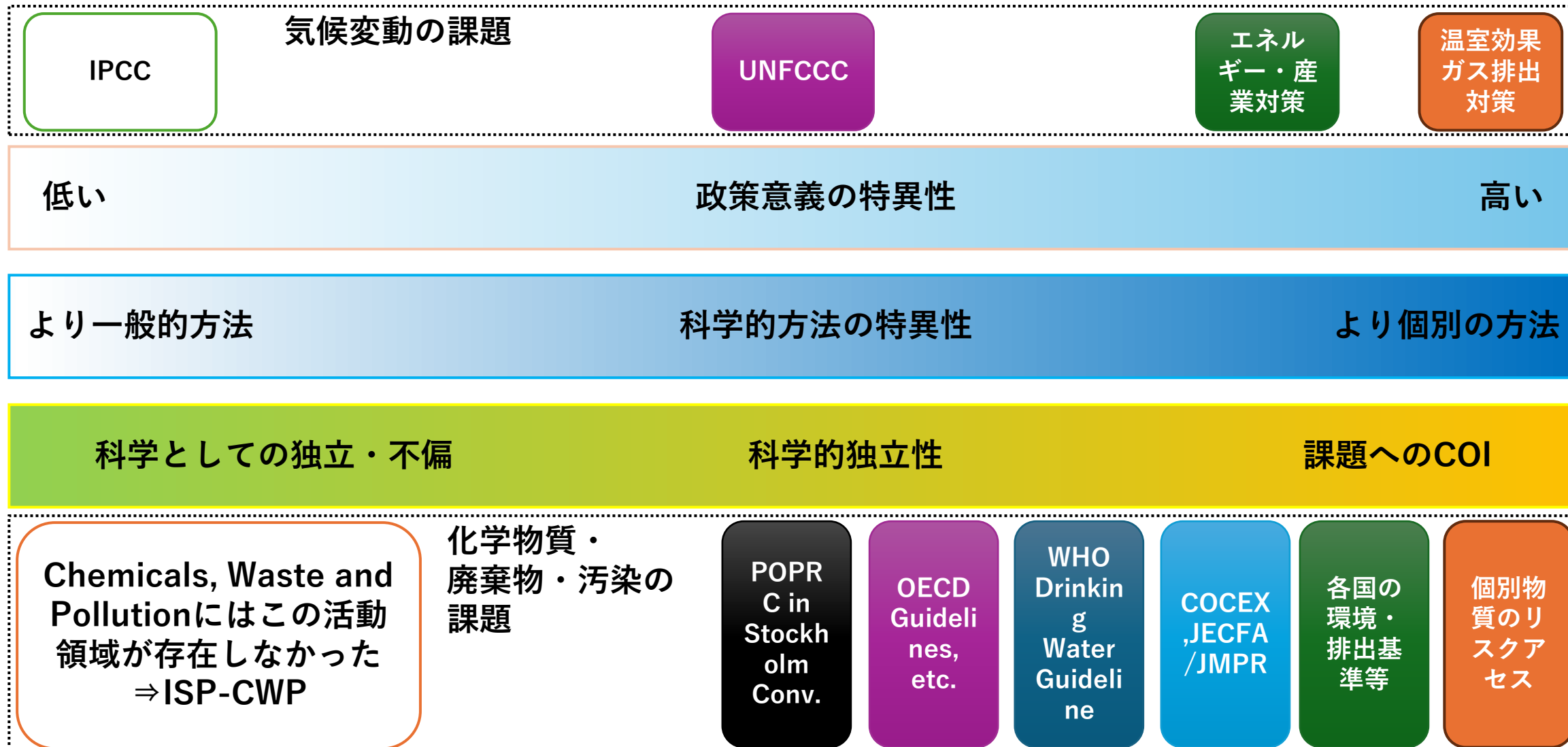


科学—政策パネルにおける科学
と政策はこの枠組みに限られる
ことはない



私たちが科学を考える
際の発想の転換が必要

課題の性質と求められる科学の性格、 および行動原則



IPCC、IPBES、ISP-CWPそれぞれの課題の特性

IPCCは割合大きな、継続的な課題設定が多いように見える

AR7サイクル 作業部会

- 第1作業部会 (WG1) - 自然科学的根拠
- 第2作業部会 (WG2) - 影響・適応・脆弱性 (影響と適応に関する1994年IPCCテクニカルガイドラインの改訂と更新を含む)
- 第3作業部会 (WG3) - 気候変動の緩和

特別報告書等

- 気候変動と都市に関する特別報告書
- [短寿命気候強制力因子(SLCF) インベントリに関する]2027年IPCC方法論報告書
- [国家温室効果ガスインベントリのための二酸化炭素除去(CDR)技術・炭素回収利用及び貯留(CCUS)に関する]2027年IPCC方法論報告書 (追加ガイダンス)

IPBESはかなり異なる個々の課題を順次に設定されているよう



ISP-CWPでの課題はIPBESの課題の立て方にやや近いかも

PFAS? 内分泌かく乱? プラ? 分析? 情報? 小児? 脆弱性? ...



これは本日ブレストの主要な関心の一つだが、何であるにせよ、

- 課題の立て方→IPBESに近いかも
- 報告と政策の関連→報告が政策にかかわる程度はIPCCに近いのでは

ISP-CWPを前提にした科学的知見の応用モデル

ISP-CWP

各国で共有されるべき基本的な科学的知見

多分野・複数組織にわたる総合が必要な課題

GFC、IGO

リスク評価、試験法、標準化

ステークホルダーとの連携による国際協調施策

各国

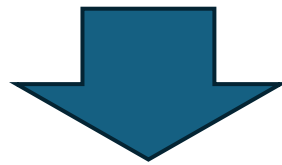
各国施策への展開

新たな課題の提案

このあとの先生方への共通質問

環境におけるChemicals, wastes and pollutionにかかわる学術分野において

- 1 話題とする学術分野、課題、またご自身のバックグラウンドや研究など
- 2 それぞれのお考えから見た政策と科学の課題。何が求められるか、科学的知見の何が、あるいはどのように足りないか
- 3 2.での課題に対して、世界レベルに視野を広げた上で自身が考え得る、政策に新たな視野や基礎を与えると期待できる検討課題の例、アイディア、方法など
4. (+1として任意質問)ISP-CWPでの活動に際しての希望、懸念、期待など



この3+1の共通質問を意識してご専門分野からのお考えをいただく

本セッションから次に向けて

アイデアをいただきたい事項	成果物	課題(課題の規模感が大事とのIPBESの経験)	分野
ISP-CWPへの期待と考えられる課題、アイデア	ISP-CWPの主要な機能 (a)Horizon Scanning ー新しい課題は何か？ (b)Assessmentの課題 ーレビューと科学的見解 (c)Providing up-to-date information (d)Capacity building それぞれをイメージしての課題を示すこともあり得るか	例) PFAS？ 子供の健康？ 生物多様性と毒性？ 地球規模アセスメント 物質管理のフレームワーク	化学 毒性学 生物学・生態学 健康科学 工学 社会科学
日本学術界から論文等の発信はできないか	何かの論文	Horizon scanning/Assessmentの課題 概念枠組みの提案	関わるべき分野の提案、担当 やるとすると雑誌？
そのほか、アイデア、課題、困難、ほかなんでも		エフォート、支援などへの懸念？	